

プロトコルの種類		例1 持続動脈注入	例2 (GEM)	例3 (LVFU)	例4 (CPTLVFU)
注射剤調剤準備	化学療法実施計画書の受領	1	1	1	1
	記載事項(用法・用量・実施日時など)の確認, プロトコールとの照合	2	2	2	2
	投薬歴(併用禁忌薬, 前投薬など)の確認	3	2	2	2
	ラベルの作成(入力, 仮処方せん発行)	4	2	3	4
	注射剤の取り揃え	5	3	4	5
	無菌製剤記録簿の印字	4	2	3	3
	鑑査(薬歴・実施計画書と確認)	3	2	3	4
	洗浄・無菌製剤室への搬入	5	5	5	5
	合計実施時間	27	19	23	26
注射薬調剤	処方せんと実施計画書の用量・用法と臨床検査値などの確認	2	2	2	2
	化学療法処方せんに疑義がある場合には, 処方医に確認	2	2	2	2
	無菌室への入室	5	5	5	5
	化学療法処方せん、無菌製剤実施票と薬剤の内容確認	2	2	3	4
	混合調製	20	5	15	20
	ラベル添付、退室	5	5	7	8
	調剤注射剤鑑査・交付	5	5	7	8
	合計実施時間	41	26	41	49
合計実施時間(準備・調剤)		68	45	64	75

表6 無菌製剤(抗がん剤)の混合調製の実施時間

II-4 その他

病棟のステント、カテーテルなどの医療材料の管理(設問18)については2.4%とほとんどの施設で実施されていない。昨年、薬事法改正に伴い医療器材及び材料の適正管理が義務付けられており、医療器材及び材料の管理についても、医薬品と同程度の管理が求められていくものと思われる。それらの管理を行う職種として薬剤師が適任と考えられ、今後、それらの現状調査とあるべき姿への検討が必要である。